

Spire_M

音楽のおくりもの Information

小学校版
通巻第21号

新しい評価の考え方と評価規準の設定

新潟大学教育学部 伊野 義博

ピアノ工場見学記

音楽をとおして異なる文化を理解する

秀明大学学校教師学部 桐原 礼

編集部からのお知らせとお願い



新しい評価の考え方と評価規準の設定

新潟大学教育学部 伊野 義博

音楽科の評価の観点が「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」「鑑賞の能力」と新しくなりました。小学校では、平成23年度からこの新観点到則って評価規準を設定し、授業を実施することになります。

評価の観点はどのように変わったのでしょうか、また、授業では評価規準をどのように設定していけばよいのでしょうか。

1 ●新しい評価の観点

新しい評価の観点は次のようになりました。

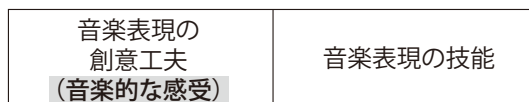
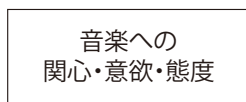
これまでの評価の観点	新しい評価の観点
○ 音楽への関心・意欲・態度 ○ 音楽的な感受や表現の工夫 ○ 表現の技能 ○ 鑑賞の能力	○ 音楽への関心・意欲・態度 ○ 音楽表現の創意工夫 ○ 音楽表現の技能 ○ 鑑賞の能力

矢印で示した「音楽的な感受」の位置づけに注目してください。「音楽的な感受」は、これまで「音楽的な感受や表現の工夫」の中で位置づけられていました。しかし新しい観点では「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」の双方に入れ込まれています。これを図示してみましょう。

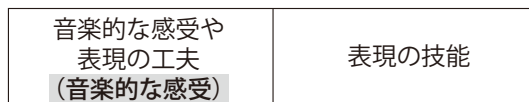
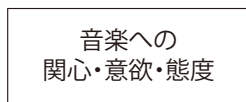
評価の観点における「音楽的な感受」の位置づけ

【A表現領域】

これから

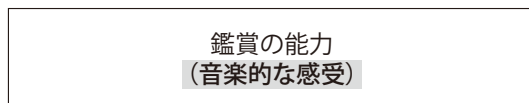
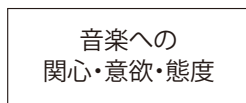


これまで

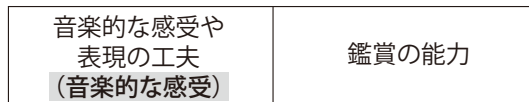
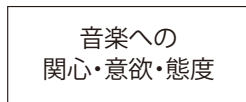


【B鑑賞領域】

これから



これまで



このようになった背景には、感性を高め、思考・判断し、表現する一連のプロセスを働かせる力の育成を目指した音楽科学習指導要領の趣旨に即したものにすること、教育現場から「音楽的な感受や表現の工夫」と「鑑賞の能力」の違いが分かりにくく、評価しにくいといった声があったことなどがあげられます。次表は、音楽科の新しい評価の観点及び趣旨です。下線部が「音楽的な感受」に相当します。「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」に同じ文言がありますね。観点内における位置づけがよくわかります。

小学校音楽科における評価の観点及びその趣旨

観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣 旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら</u> 、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら</u> 、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。

2 ●授業における評価規準

以上のことから、これからの音楽授業においては、表現や鑑賞の学習それぞれにおいて、基本的には次のような形で評価の観点が設定され、「音楽的な感受」が位置づけられていくことになります。

〈表現の授業の場合〉

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫 (音楽的な感受)	音楽表現の技能
--------------	-----------------------	---------

〈鑑賞の授業の場合〉

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力 (音楽的な感受)
--------------	-------------------

〈表現と鑑賞を関連させた授業の場合〉

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫 (音楽的な感受)	音楽表現の技能	鑑賞の能力 (音楽的な感受)
------------------	-----------------------	---------	-------------------

なお、表現と鑑賞を関連させた授業の場合、「音楽的な感受」の内容は、表現及び鑑賞の双方において同一となる場合も考えられます。

3 ●評価規準の設定

それでは、ここからは、評価規準の設定について、低学年を例に、歌唱と鑑賞の授業を想定して考えてみましょう。その際の資料として、国立教育政策研究所教育課程研究センターがとりまとめた「評価規準作成のための参考資料（小学校）」*1（以下「参考資料」）を用います。評価規準を設定する際は、いつもこの「参考資料」を用意しておいてください。なお、ここで示すのは、ひとつの基本例です。各学校では、教師や児童の実態等に合わせて、評価方法を工夫し、適切な評価規準を決定することが大切です。

*1 国立教育政策研究所 教育課程研究センター「評価規準作成のための参考資料（小学校）」平成22年11月。なお、この資料は、同センターのホームページにも掲載されています。
国立教育政策研究所 TOP > 各部・センター案内 > 教育課程研究センター > 指導資料・事例集（音楽科：pp.137-151）<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

1) 基本的な手順

評価規準設定の基本的な手順は、次のようになります。

- ①授業のねらいや内容、教材、対応する学習指導要領の指導事項、共通事項の音楽を形づくっている要素等を決定する。→「参考資料」のうち、相当する学年の「評価規準の設定例」に着目する。→②「評価規準の設定例」から、指導事項と共通事項の音楽を形づくっている要素に対応するものを選択する。→③選択した「評価規準の設定例」に基づいて、実際の授業ではどのような評価規準にすれば良いか考える。→④題材内での位置づけ、評価方法等を考慮して、評価規準を決定する。

2) 評価規準の設定例

(1) 「A 表現・歌唱」の場合

次の内容で歌唱の授業を計画するとしましょう。

歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして、思いをもって歌う学習
－歌唱共通教材「春がきた」の場合－

○学習指導要領の内容（第1学年及び第2学年）

- ・A 表現(1)イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。

〔共通事項〕(例) ア(ア) 旋律、強弱 イ「旋律」「強い弱い」の用語

「参考資料」の第1学年及び第2学年、【「A 表現・歌唱」の「評価規準の設定例」】のうち、「A 表現(1)イ」に対応する設定例に着目します。

《音楽への関心・意欲・態度》

「音楽への関心・意欲・態度」のところを見ると以下のようになっています。

- ・歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。

教材は、「春がきた」ですから、実際の評価規準は、次のように設定することができます。下線部に注目してください。

【実際の評価規準】

A:「春がきた」の歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。

次のように具体的にすることもできます。

A':春がやってくる情景や気持ちを想像したり、うれしい気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。

《音楽表現の創意工夫》

「音楽表現の創意工夫」のところを見ると以下のようになっています。

- ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いを持っている。

これを基にして、共通事項の音楽を形づくっている要素のうち、本授業で扱う「旋律、強弱」に着目し、指導内容や教材、実際の学習活動などを考慮して、評価規準を考えていきます。

【実際の評価規準例】

A：旋律、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。

ここでの教材は「春がきた」ですから、次のように具体的にすることもできます。

A'：「春がきた」の旋律、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取り、春がやってくる情景や気持ち、うれしい気分にふさわしい旋律や強弱の表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。

この評価規準は、授業の流れや評価の実際を考慮するなどして、次のように二つに分けて示すこともできます。

- a：「春がきた」の旋律、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。
- b：春がやってくる情景や気持ち、うれしい気分にふさわしい旋律や強弱の表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。
- b'：聴き取り、感じ取りながら、春がやってくる情景や気持ち、うれしい気分にふさわしい旋律や強弱の表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。

このように、A'、a・b・b'のように具体化することは、他の観点でもできます。実際の授業では最も適切なレベルを考えて下さい。なお、b'は「音楽的な感受」との連続性を意識した評価規準です。

《音楽表現の技能》

「音楽表現の技能」のところを見ると以下のようになっています。

- ・歌詞の表す情景や気持ち、楽曲の気分に合った表現で歌っている。

これを基にして、実際の評価規準を考えていきます。

【実際の評価規準例】

A：「春がきた」の歌詞が表す情景や気持ち、楽曲の気分にふさわしい旋律や強弱の表現で歌っている。

あるいは、次の形も良いでしょう。

a：春がやってくる情景や気持ち、うれしい気分にふさわしい旋律や強弱の表現で歌っている。

(2) 「B鑑賞」の場合

今度は、鑑賞の授業で考えてみましょう。前記歌唱の授業では、一つの指導事項（A 表現(1)イ）に限定して考えましたが、ここでは、複数の指導事項の学習を想定してみます。

楽曲の気分や音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲や演奏の楽しさに気付いて鑑賞する学習－鑑賞教材「おどる こねこ」（アンダソン）の場合－

〈学習指導要領の内容（第1学年及び第2学年）〉

B鑑賞(1)

ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。

〔共通事項〕（例）ア（ア）旋律、速度（イ）反復 イ旋律、速度（速さ）、反復の用語

指導事項ア、イ、ウを関連させた評価規準

「参考資料」の第1学年及び第2学年、【「B鑑賞」の「評価規準の設定例」】に着目します。

《音楽への関心・意欲・態度》

「音楽への関心・意欲・態度」のところを見ると以下のようになっています。

- ・ 楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。
- ・ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。
- ・ 想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。

これらを基にして「音楽への関心・意欲・態度」の評価規準を考えます。

【実際の評価規準例】

A：楽曲全体にわたる気分、旋律の反復や速度の変化を感じ取るとともに、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。

もちろんこの一文は、学習の流れに沿って以下のように分けて、より具体化することも可能です。

- a：「おどる こねこ」の楽曲全体にわたる気分を感じ取ったり、旋律の反復や速度の変化を感じ取ったりする学習に進んで取り組もうとしている。
- b：「おどる こねこ」を聴いて、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。

《鑑賞の能力》

「鑑賞の能力」のところを見ると次のようになっています。

- ・ 楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴いている。
- ・ 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴いている。
- ・ 楽曲の気分や音楽を形づくっている要素のかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴いている。

これらを基にして、「鑑賞の能力」の評価規準を考えます。

【実際の評価規準例】

A：旋律、速度、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲全体にわたる気分、旋律の反復や速度の変化を感じ取るとともに、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴いている。

この一文も、学習の流れに沿って以下のように分けて、より具体化することができます。

- a：「おどる こねこ」の旋律、速度、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。
- b：「おどる こねこ」の楽曲全体にわたる気分を感じ取ったり、旋律の反復や速度の変化を感じ取ったりして聴いている。
- c：「おどる こねこ」の楽曲全体にわたる気分、旋律の反復や速度の変化から、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴いている。

指導事項ア、イに関連させた評価規準

《音楽への関心・意欲・態度》

対応する「参考資料の評価規準の設定例」は、次の二つです。

- ・ 楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。
- ・ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。

【実際の評価規準例】

A：楽曲全体にわたる気分を感じ取ったり、旋律の反復や速度の変化を感じ取ったりして聴く学習に進んで取り組もうとしている。

学習の流れに沿って、これらを二つに分けることもできます。

- a：「おどる こねこ」の楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組んでいる。
- b：「おどる こねこ」の旋律の反復や速度の変化を感じ取ったりして聴く学習に進んで取り組もうとしている。

《鑑賞の能力》

対応する「参考資料の評価規準の設定例」は、次の二つです。

- ・ 楽曲全体にわたる気分を感じ取っている。
- ・ 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴いている。

【実際の評価規準例】

A：旋律、速度、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲全体にわたる気分を感じ取ったり、旋律の反復や速度の変化を感じ取ったりして聴いている。

これらを二つに分けて具体化することもできます。

- a：「おどる こねこ」の旋律、速度、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取って聴いている。
- b：「おどる こねこ」の楽曲全体にわたる気分を感じ取ったり、旋律の反復や速度の変化を感じ取ったりして聴いている。

指導事項ウの評価規準

《音楽への関心・意欲・態度》

対応する「参考資料の評価規準の設定例」は次の一つです。

- ・想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。

【実際の評価規準例】

- ・「おどる こねこ」を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。

《鑑賞の能力》

対応する「参考資料の評価規準の設定例」は次の一つです。

- ・楽曲の気分や音楽を形づくっている要素のかかり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴いている。

【実際の評価規準例】

A：「おどる こねこ」の楽曲の気分や、旋律の反復や速度の変化から、想像したり感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴いている。

どうですか？評価規準は、指導内容を押さえるとともに、共通事項の音楽を形づくっている要素のうちどれに注目するかをはっきりさせた上で、「参考資料」に基づいて作成していけば、すっきりとした形で設定できると思います。この作業を参考にして、それぞれの学校の実態や指導計画等を踏まえ、実際に機能する評価規準を作成してください。なお、評価規準は評価方法とセットで考えることがとても大切です。また、必要に応じて具体化し、以上述べてきたA・A'レベルのものを「題材の評価規準」、a・b・b'・cレベルのものを「学習活動に即した評価規準」（今までの「学習活動における具体的評価規準」に相当）とすることも可能です。

ピアノ工場見学記

行ってきましたーす!



作:音楽編集部
画:芳川 豊

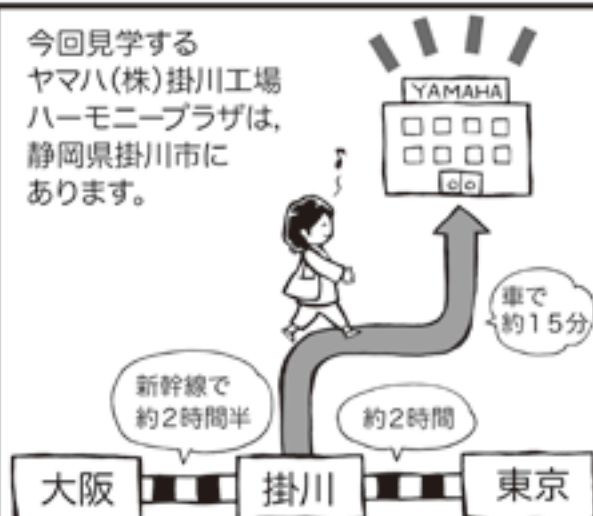


最近、工場見学が
とても人気なのだそうです。



そこで私も、グランドピアノ工場の見学に
参加してみることにしました。

今回見学する
ヤマハ(株)掛川工場
ハーモニープラザは、
静岡県掛川市に
あります。



始めにヤマハのプロフィールビデオを
見ます。



次はいよいよ工場見学です。
工場の中は、スタッフの方が説明しながら案内していただきます。



工場の中は機械の大きな音があるので、説明を聞くためイヤホンをつけます。



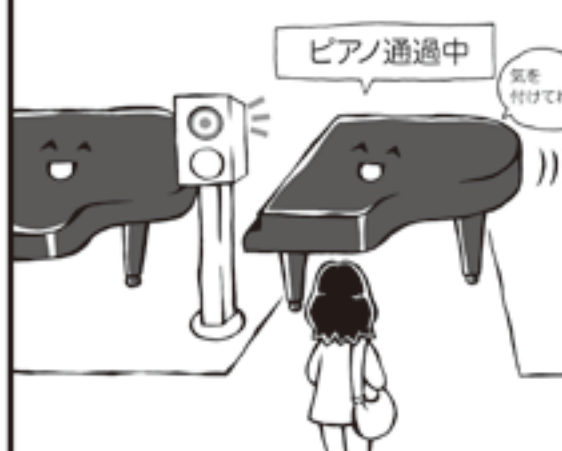
工場の出入り口はドアが二重になっていて、工場の中の湿度が変化しないように、片方のドアしか開かない仕組みになっています。



中に入ると、ピアノが製造ラインに並び、技術者がピアノを一台一台組み立てています。



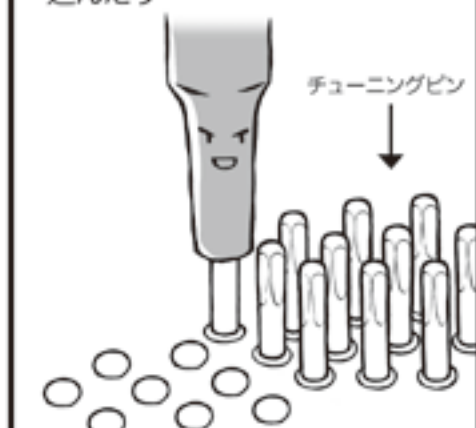
見学ルートがピアノが横断するところがあり、そこには信号機が設置されていました。



ピアノの製造も機械の導入が進んでいるようですが、熟練した技術者の感覚にはかなわない部分も多いようです。人間(技術者)と機械とが、それぞれの特性を生かして役割分担している…というところでしょうか。



機械は、チューニングピン(弦の一端を巻きつけるピン)を打ち込んだり…



鍵盤を何度も弾いてアクションの動きをなじませたりします。



技術者は弦を張ったり…



調律をしたり…



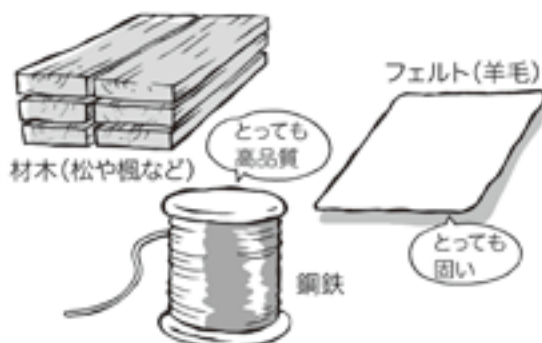
鍵盤、アクションの動きを整えたり(整調)…



ハンマーの形や硬さを調整し、音色をつくったりします(整音)。



ピアノは、いろいろな種類の木や金属、フェルトなど、何と8000点もの部品からできているそうです！



そして、ピアノをつくるのには下のような工程も含め、長い時間が必要なのだそうです。

水分約80%→約10%



原料の木を乾燥させる工程や

「シーズニング」
約一週間



作ったピアノを一定の環境下に置き、慣らすことも大切。

最後に、ピアノを長持ちさせるコツを教えてくださいました。



帰りに、こちらの工場ならではの素敵なお土産をいただきました。



■ 見学情報 ■

- ヤマハ株式会社 掛川工場 ハーモニープラザ
TEL:0537-24-8069
- 工場見学実施日:予約制、毎週月曜日・水曜日・金曜日
(祝日、年末年始、GW、夏季休業等を除く)
- 定員:40名
※小中学校等、社会科見学でのお申し込みは、曜日、人数等のご相談に応じます。
- 開始時間:10:00~13:30~
- 所要時間:90分
- 入場料:無料
- 予約受付期間:2ヶ月先の同日まで予約可能。
※同日が休業日の場合は、翌営業日
- お申込み方法:お電話にてお申込みください。
- 受付時間:平日9:30~17:00
(年末年始、GW、夏季休業等を除く)



音楽をとおして異なる文化を理解する

秀明大学学校教師学部 桐原 礼

1 ●はじめに

平成 20 年 3 月に告示された新しい学習指導要領においては、中学校音楽科の目標に新たに「音楽文化への理解」が掲げられ、小学校音楽科においても一層多様な音楽を扱っていくことが示されました。日常にはみられない特徴があらわれた音楽との出会いは、音楽や文化に対する見方を変える契機となり、文化的背景を異にする人々についてどのように理解していったら良いか学ぶ機会となるでしょう。民族音楽学者の藤井知昭は、「その人々が生活のなかで、どのように音楽をはぐくんでいるかを知ること、その文化を理解する道であるとともに、私たちの文化や音楽のあり方に対する反省や触発をあたえてくれることになる」と述べ、異文化を理解する困難さを認めつつも、音楽が人々の感性の象徴であり、人々の気持ちを理解するための糸口となるとしています*¹。人は誰でも、自文化にいる内では、自文化とは何なのか、自分はどのように文化的存在であるのかを意識することがありません。世界のさまざまな音楽にふれることは、自分と他者、音楽文化について考えをめぐらせ、既存のものの見方を変えていく絶好の機会となるのです。こうした異文化接触による自身のものの見方の変容のプロセスを、筆者は異文化理解と呼んでいます。いくら異文化にふれたといっても、新たな情報を得ただけでは異文化理解とは言えません。異文化との出会いによって、自身のこれまでの単一的な価値観や考え方に気づき、より複眼的にしていけることが大切なのです。これは、今後さらに異質なもの、もしかしたら“苦手・嫌い”と感じるようなものを受け入れていくための出発点として、非常に重要な学びとなるのです。

音楽をとおして異なる文化を理解することは、文化について様々な角度からとらえられることにつながります。これは、文化に対する洞察を深めていくための訓練と言えるでしょう。この際、世界のさまざまな音楽にふれながら、以下のような場面を設定することで、文化に対する見方、異なる文化への理解の仕方を学んでいくことができると考えています。

- ・ 自文化との相違点や共通点を知る
- ・ 文化的背景を異にする人々の生活や心情などについて知る

本稿においては、音楽をとおして異なる文化を理解しようとする際の、実践のための視点について紹介します。世界の多様な音楽を扱った学習は、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞のいずれの分野でも展開できますが、今回は歌唱教材について取り上げてみたいと思います。歌唱教材には、世界の様々な国や地域の人々の価値観や行動、感情、暮らしや風土の様子、音楽文化の固有性などがあらわれています。それぞれの特徴について子どもたちの自文化と対比させ、どのように相違または共通しているのかなど、子どもたち自身が考えをめぐらせる活動を展開することができます。今回は特に、歌唱教材をとおして文化的背景を異にする人々の生活や心情などに着目できることを提案したいと思います。

2 ●どのように教材を選択したらよいか

(1) 子どもたちの自文化に着目する

まず始めに、子どもたちの自文化とはどのように成り立っているのか考えてみるのが大切です。文

* 1 藤井知昭ほか（1992）『民族音楽概論』 東京：東京書籍 p.29

* 2 箕浦康子（1997）「文化心理学における＜意味＞」 柏木恵子；北山忍；東洋（編）『文化心理学』 東京：東京大学出版会 pp.44-63

化と心との関連について研究している箕浦康子は、文化は心のあらわれであると言っています*2。人は成長するにつれ、文化的実践を重ねながら次第に文化的存在となり、個人的特徴や社会的文脈に適した特徴があらわれるようになっていきます。子どもたちは日々の生活の中で、習い事、家庭、学校、地域の音楽、音環境、テレビの影響など、さまざまな文化的実践を重ねながら、価値観や行動パターンを身につけたり、音楽の楽しみ方や好みを持ったりするようになるでしょう。こうした文化的実践によって子どもたち個人の内に取り込まれた文化の特徴を、「自文化」ととらえることができます（図1）。異文化に出会わせる以前に、子どもたちがどのような文化的実践の場を持ち、どのような価値観や感情、そして音楽表現の仕方や好みを持っているかを知ることが重要です。

- ・子どもたちの自文化の成り立ち（価値観・感情・行動など）
- ・文化的実践の場（家庭・学校・地域・習い事・音環境・テレビの影響など）

(2) 効果的に異文化に出会わせる

次に、どのように異文化に出会わせれば、子どもたちが自文化について振り返ったり、他者とその音楽について共通点や違いを認識したりしやすいか、教材について吟味する必要があります。子どもたち自身が共通点や相違点などに気づくようにするため、自分たちの生活や行動などと比べることができたり、自分たちの音楽文化とのつながりや違いなどが明確になるような教材が良いでしょう。

- ・子どもたちの価値観・行動・感情などとの共通性や相違性がみられる音楽
- ・子どもたちの音楽文化とのつながりやルーツ、固有性や多様性がみられる音楽

適した教材は、子どもの発達段階からおおよその予測をすることができます。音楽教科書の歌唱教材をみると、低学年では、主に身の周りの情景など、子どもたちの生活と密接な歌が多くみられるため、異文化の音楽にあらわれた擬声語、身振りや遊び歌、生活の様子などがみられる教材を取り上げることができます。中学年では、行事や習慣、固有のリズム、価値観や考え方などがみられ、高学年では楽器など音楽的な特徴の固有性や多様性を示す教材が多く扱われるようになっていきます。よって、低学年から中学年においては、日常生活と関わりの深い身の周りの情景をイメージさせるもの、次第に高学年に向けてそれぞれの文化固有の特徴や未知なるものへと、子どもたちの発達段階に応じて教材を選択していくことが重要であると考えられます。（図2）

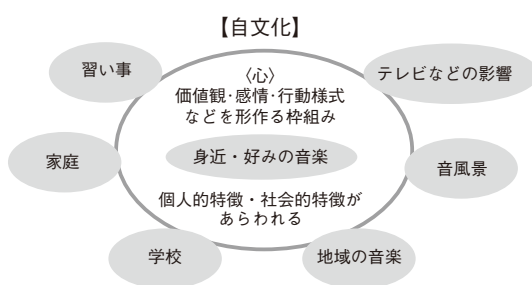


図1 自文化のとらえ方

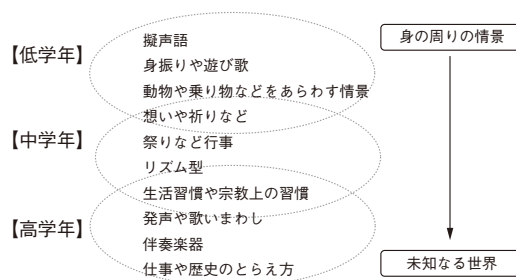


図2 発達段階との関連

3 ●人々の心情や行動、生活の様子について知る

ここでは、実際に音楽の教科書に掲載されている歌をみていきます。（以下、教育出版「音楽のおくりもの」に掲載されている楽曲について、平成17年版を「旧」、平成23年版を「新」と表記しています。）

(1) 人々の心情や考え方

歌をとおして、普段は目に見えない人々の心情や価値観など「心」と密接な関わりがある特徴につ

いて知ることは、他者について具体的にイメージするために非常に重要な活動と言えます。共通した感情を知ることは、同じ人間としての「共感」を導き、心理的距離を縮めることに役立つからです。また、自分たちとは違った考え方や行動を知り、それを受け入れていく「共感的な理解」の体験も大切です。

韓国の歌<こきょうの春>（新4年，p.46）には春に咲く花々や故郷を想う心情が描かれており、我が国の<ふるさと>や<さくら>，<われは海の子>などにあらわれた思いと重なるものがあります。フォスター作曲の<こきょうの人々>（新5年，p.12）やロジャース作曲の<エーデルワイス>（新4年，p.14），ウアン・リーピンの<海よ，ふるさと>（新6年，p.49）も同様です。また，月に対する考え方は世界でさまざまですが，韓国の<半月>（新4年，p.52）には，月とともにうさぎが登場しています。「ふるさと」の大切さや「花」への想い，「月」に対する考え方など，自分たちと似たような感じ方をしている人々の存在を認識しながらも，それぞれに想いを寄せる対象が違うことを知ることができます。また，歌に関わる鑑賞活動としては，ゴスペル（新5年，p.35）は神への祈りや感謝をあらわしており，グリオの語り（新5年，p.34）は一族の歴史を重要視する考えを示しています。これらについて，自分たちの考え方や行動との違い（または共通点）について考えてみるができるでしょう。

(2) 言葉や身振り

ジェスチャーなど身振りをしながら歌う際には，身体を伴う表現の仕方について知ることができます。例えば，韓国の遊び歌<あさかぜ>（旧1年，p.36）には韓国式のじゃんけんがあらわれており，「クリクリクリ」(手を回す)や「カイバイボー」(じゃんけん)というじゃんけんに関わる言葉や動きを体験することができます。遊び歌や身振りを体験し，時にはこれらの歌を原語で歌いながら，自分たちとは違った言葉や身振りをしている人たちの存在を認識することができるでしょう。

(3) 生活の様子

歌には風土や自然環境があらわれていたり，人々の生活の様子を垣間見ることができるため，自分たちとどのように共通または相違しているか，考えをめぐらせることができます。日本の歌にも<茶つみ>や<春の小川>など風土や人々の生活があらわれた歌が多くみられますが，ネパールの<ヒマラヤの歌>（新3年，p.38），フィリピン民謡<レロン レロン シンタ>（新3年，p.41），エジプトの<ラマダンの歌>（旧3年，p.32）を取り上げ，自分たちの住んでいる風土や習慣と比べてみると良いでしょう。また，<リオのカーニバルの様子>（新4年，p.38）など祭りについて取り上げ，日本の祭りと比較することで，衣装や楽器，リズムなどの違いを感じ取ったり，祭りに対する共通した思いなどについてイメージしてみると良いでしょう。

4 ●教材化の例

教科書に載っている教材だけでなく，地域に住む外国の方々とともに歌の教材化をすすめることができます。二つの例を紹介します。

(1) フィリピンの子どもの歌<10本のゆび>

小学校1年生の音楽授業で取り上げた楽曲です（楽譜1）。日本の大学に留学中のフィリピン人の方と話し合い，歌詞の内容が分かりやすく身振りをつけて歌えること，身振りによって日本人とのジェスチャーの違いを知ることができるという理由から，この曲を選びました。

子どもたちは元気いっぱいに身振りをつけてこの歌を歌い，「おしゃべりな舌でうそついちゃだめ！」という部分の「だめ！」というところで人差し指を立てて横に振るというジェスチャーについて，自分たちと違う表現の仕方であることに気づきました。また，「この言葉は誰が誰に言っているか」との質問に，「お母さん！」という声上がり，フィリピンの子どもたちも同じような簇の言葉を言われていることを感じ取ったようでした。

(2) 中国内モンゴル自治区の子どもの歌<タクタ(鳩)>

地域の子どもと高齢者を対象とした国際交流会で取り上げた楽曲です（楽譜2）。日本の大学院に留学中の内モンゴル人と話し合い、この曲を選択しました。選曲の理由は、留学生三人が子どもの頃に習ったことがあるため内モンゴルの子どもの多くが知っている曲だろうということ、原語でも簡単に歌えること、日本の子どもにも馴染み深い鳩があらわれており、鳩の象徴でもある「世界平和や幸せを願う気持ち」が私たちと共通しているということです。

当日は、歌詞の意味を説明しながら原語の発音を練習し、舞踊の得意な留学生が鳩を模した動きをしながら、全員で歌いました。歌詞の中の「アーハホイ」の部分は、「ああ！」という感嘆詞のようなもので、内モンゴルの方々にとっては、自分の感情を込める場面となるようです。日本人にとっては普段は関わりの少ない内モンゴルの方々ですが、顔立ちは私たちとそっくりで、この歌に込められた想いにも同じ人間として共感することができます。このような歌の意味を知り、共に歌うことによって、相手への心理的な距離を縮めることができるでしょう。

▲楽譜1：フィリピンの子どもの歌<10本のゆび>
▶<10本のゆび>を聴いている様子



▲楽譜2：内モンゴルの子どもの歌<タクタ>
▶<タクタ>を歌う様子



5●おわりに

本稿では、歌唱教材をとおして異なる文化を理解するための視点について提案してきました。世界の多様な音楽にふれることにより、子どもたちのものの見方を柔軟に、また複眼的にしていけることができます。そのためには、子どもたち自身が自文化について再認識するとともに、文化的背景を異にする他者とその文化について具体的にイメージしていく取り組みが有効であると考えています。

今日、日本に暮らす外国の方々が増え、学校の中でも外国につながりをもつ子どもたちの存在が大きくなってきています。地域に暮らす外国の方々との交流や、学校の中での多文化共生に向けた取り組みにおいても、今後、音楽の果たす役割は非常に重要となるでしょう。音楽の持つ力を最大限に生かして、子どもたちの文化に対する洞察力を鍛え、文化的背景を異にする他者への共感的な理解を深めていくことができたらと願っています。

●編集部からのお知らせとお願い

平成 23 年度用「小学音楽 音楽のおくりもの」教師用指導書の下記の部分につきまして、恐縮ですが訂正の上ご指導くださいますようお願い申し上げます。

学年・種目	ページ	箇所	原文	訂正文
5 年伴奏編	140	作曲者名	熊本県民謡	作曲 / 橋本龍雄

なお、当該曲楽譜を次ページより掲載いたしました。

●教科書準拠品につきまして

学校用オルガン伴奏 MIDI データソフトに関するお問い合わせは、下記へお願いいたします。

ヤマハ(株) 国内営業本部 管弦打学校営業部

T e l . 0 3 (5 4 8 8) 1 6 8 6

U R L <http://www.yamaha.co.jp/edu/>

(株)鈴木楽器製作所 営業本部

T e l . 0 5 3 (4 6 1) 2 3 2 5

参考教材

作曲／橋本龍雄

Andante (♩ = 86~92)

ソプラノ

ピアノ

[illegible]

ソプラノ1

ソプラノ2

The image shows a musical score for two vocal parts, Soprano 1 and Soprano 2. The score is written on two staves, each with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The Soprano 1 part begins with a treble clef and a key signature of one flat, followed by a series of notes. The Soprano 2 part begins with a treble clef and a key signature of one flat, followed by a series of notes. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings like 'V'.

First system of musical notation, measures 1-4. The system consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a key signature of one flat (B-flat). It contains a melodic line with eighth and sixteenth notes, accented with 'v' marks above measures 2 and 4. The lower staff is in bass clef with a key signature of one flat, featuring a bass line with eighth and sixteenth notes, also accented with 'v' marks above measures 2 and 4. The system concludes with a double bar line and the word 'Fine' written below the staff.

Second system of musical notation, measures 5-8. The system consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a key signature of one flat, containing a melodic line with eighth and sixteenth notes, accented with 'v' marks above measures 6 and 8. The lower staff is in bass clef with a key signature of one flat, featuring a bass line with eighth and sixteenth notes, also accented with 'v' marks above measures 6 and 8. The system concludes with a double bar line and the word 'Fine' written below the staff.

Third system of musical notation, measures 9-12. The system consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a key signature of one flat, containing a melodic line with eighth and sixteenth notes, accented with 'v' marks above measures 10 and 12. The lower staff is in bass clef with a key signature of one flat, featuring a bass line with eighth and sixteenth notes, also accented with 'v' marks above measures 10 and 12. The system concludes with a double bar line and the word 'Fine' written below the staff.

Fourth system of musical notation, measures 13-16. The system consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a key signature of one flat, containing a melodic line with eighth and sixteenth notes, accented with 'v' marks above measures 14 and 16. The lower staff is in bass clef with a key signature of one flat, featuring a bass line with eighth and sixteenth notes, also accented with 'v' marks above measures 14 and 16. The system concludes with a double bar line and the word 'D.S.' written below the staff.

Fifth system of musical notation, measures 17-20. The system consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a key signature of one flat, containing a melodic line with eighth and sixteenth notes, accented with 'v' marks above measures 18 and 20. The lower staff is in bass clef with a key signature of one flat, featuring a bass line with eighth and sixteenth notes, also accented with 'v' marks above measures 18 and 20. The system concludes with a double bar line and the word 'D.S.' written below the staff.



第9回

地球となかよし

メッセージ

作品募集(2011年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

2010
入選作品

応募
資格

小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)

作品
テーマ

- ①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み
- ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること
- ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたこと

応募
期間

2011年7月1日～9月30日
詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

「ちきゅうも赤ちゃんもだいじ」



8月9日に、わたしのいもうとがうまれました。

赤ちゃんは、まだおしゃべりできないし、あるけないから、パパやママがおむつをかえたり、だっこをしてあげています。わたしやおとうとがだっこをすると、にこっとわらいます。

わたしたちがすんでいるちきゅうも、やさしくだっこしてあげるとわらってくれるかな?

◎主催／教育出版 ◎協賛／日本環境教育学会

◎後援／環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。



教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6982 FAX 03-3238-6975
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10

小学音楽通信 Spire_M [2011年 春号] 2011年3月31日 発行

表紙写真：草風 藍

編集：教育出版株式会社編集局

発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光

印刷：大日本印刷株式会社

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10

電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL : 011-231-3445 FAX : 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL : 0138-51-0886 FAX : 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL : 022-227-0391 FAX : 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL : 052-262-0821 FAX : 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL : 06-6261-9221 FAX : 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL : 082-249-6033 FAX : 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL : 089-943-7193 FAX : 089-943-7134
九州支社	〒810-0001 福岡市中央区天神 2-8-49 ヒューリック福岡ビル 8F TEL : 092-781-2861 FAX : 092-781-2863
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F TEL : 098-859-1411 FAX : 098-859-1411